

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	さぼーとせんたーきあら			
○保護者評価実施期間	令和7年 2月 28日		～	令和7年 3月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数)	2名
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 28日		～	令和7年 3月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 21日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	★幅広い年齢層の他児との関わり 未就学児～高校3年生までの児童と一緒に活動している	年齢の異なる他児と過ごすことで、日常生活に必要なスキル等を真似しながら習得したり、関わり方(上下関係)を学んだりできるよう他児との関わりを大切にしている	事業所内だけではなく他事業所(姉妹店)の児童と関わるができる活動を実施しています。
2	★子どもたちが安心感を持って、楽しみを感じながら通所できる環境づくり	ご利用の子どもたちに職員が担当制でついておりません。職員全員が特性を理解し、すべての児童の支援に関わることができるように取り組んでいます。	支援に関わる職員も含め、施設内での活動について子どもたちが自己選択・自己決定ができる環境を作ることで、子どもたちが安心感や楽しみを感じられる場づくりに取り組んでいます。
3	★他方面への送迎 学校やご自宅までの送迎実施	送迎時間の調整等を行うことで、保護者様の負担軽減につなげている。面談や送迎時、連絡帳を活用し、要望を確認しています	保護者様の要望に対応できるよう、都度職員間で話し合い調整を行っています 送迎車内においても、子どもたちとのコミュニケーションを大事にしています

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士の関わりや家族も参加できる研修会等の機会について	保護者様同士が顔合わせの機会が少ない事 さまざまな特性の子どもたちにご利用いただき、課題もさまざまであるため家族も参加できる研修や家族支援プログラムを実施することも検討する必要がある	保護者交流会等を実施し、保護者同士の関わりや相談の場を提供していく 必要に応じて面談の場を設け課題に合わせた情報提供やアドバイスを行って行きたい
2	地域の子どもたちと活動する機会や、放課後等児童クラブ等の交流	地域イベントへの参加や公共施設等の交流は図れているが、地域の子どもたちと交流する機会が提供できていないこと	児童館等を通して地域の子どもたちとの交流ができる場を設ける。地域住民や大学生など、子どもたちが普段の生活の中で関わるができない世代の方々と一緒に楽しく活動する機会を提供できるよう取り組んで行きたい
3			